

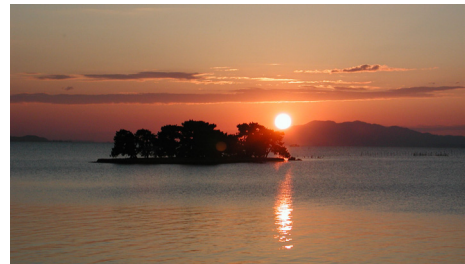
市民の意見を取り入れた環境整備（宍道湖夕日スポット整備）

中国地方整備局 松江国道事務所調査設計課 田島宏晃

1、概要

島根県東部に位置する宍道湖（斐伊川水系）は島根を代表する景勝地である。特に宍道湖を背景に嫁ヶ島を望む夕景は美しく、湖岸沿いの国道9号には夕日の観賞・撮影を目的に地域住民はもとより多くの観光客が訪れる。しかし、現地の観賞・撮影を行う場は改善が必要な状況であり、より魅力ある道路・河川環境整備を目指して、市民ワーキングやアンケート調査などにより市民や利用者の意見を積極的に取り入れる機会を設け、整備計画の策定を行った。

本研究は、市民・利用者が計画段階から参画したことによる効果と行政機関の連携についてとりまとめた。



写真－1 夕日スポットからの夕景

2、現状の問題点と対策にあたっての問題点

2. 1、現状の問題点

宍道湖沿岸を走る国道9号の中でも、夕日の観賞・撮影者が集中する区間（以下夕日スポット）は、島根県立美術館から南方へ約500m付近であり、夕方には一般通行者と観賞・撮影者が狭小な歩道（幅1.5m）で輻輳（写真－2）し、歩行者が車道にはみ出るなど危険な状況が生じている。また、付近に駐車場がなく、夕日の時間帯には路上駐車があるため、交通安全上の問題が発生している。



写真－2 宍道湖東岸の国道9号と嫁ヶ島



写真－3 夕日時間帯の歩道混雑状況

2. 2、対策にあたっての問題点

当区間は宍道湖、国道9号、都市計画公園が隣接（写真－1）しており、各管理者の整備における基本条件は以下のとおりである。そのため、現状の

問題点を対策するための新たな土地は無く、従前から各管理者単独での対策では、根本的な解決が困難な状況であった。

道路管理者基本条件：国道9号の線形、車線数等現状を確保する。

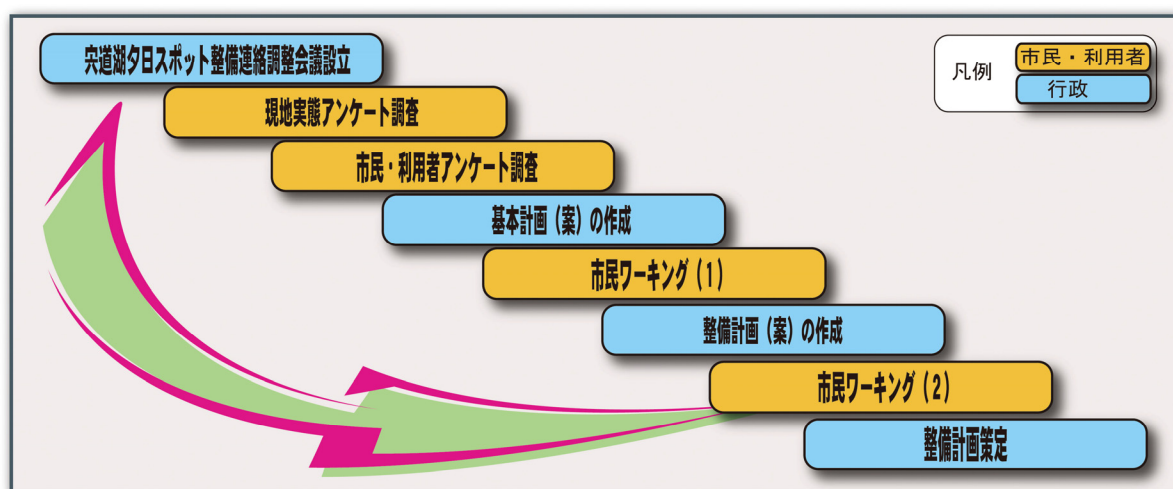
河川管理者基本条件：宍道湖の現況面積・容量を減じない。

公園管理者基本条件：都市計画公園面積を減じない。

3. 宍道湖夕日スポット整備計画の進め方

宍道湖夕日スポット整備は、各管理者・市民・学識者と調整しながら、利用者の意見、デザイン提案を受けて計画の策定を行った。

以下に宍道湖夕日スポット整備計画の進め方フロー（図－1）を示す。



図－1 宍道湖夕日スポット整備計画の進め方フロー

3. 1、宍道湖夕日スポット整備連絡調整会議設立

管理者毎の課題が諸問題の対策を行う支障となっていたため、道路管理者である松江国道事務所、河川管理者である出雲河川事務所、都市計画を所掌する島根県、公園管理者である松江市で構成する「宍道湖夕日スポット整備連絡調整会議」を設立し、諸問題に対して連絡調整を行い、環境・景観にも配慮した周辺整備を行うことにより、より魅力ある観光資源の創出を図ることとした。

3. 2、市民・利用者の計画参画

1) アンケート調査

基本計画案を作成するための意見収集として、夕日スポット整備区間において約2ヶ月間にわたる現地実態調査及びインターネットやイベントによる市民・利用者アンケートを行った。なお、この調査により、約1300件のアンケートを収集した。

2) 市民ワーキング

市民ワーキングは、宍道湖周辺の環境改善を目指して活動しているNPO法人が主体となり、大きく2段階に分けて行われた。

1段階目は、アンケート調査結果から作成した基本計画案をもとに

地元町内会代表者・島根県景観アドバイザー・島根県写真作家協会代表者等から構成する市民ワーキングを合計 5 回行い整備計画の提案を受けた。

2 段階目は、1 段階目の提案を参考に作成した整備計画案をもとに、一般公募で集まった市民に整備内容の説明と利用の観点からの意見を求めた。



図ー2 市民・利用者の意見収集（市民ワーキング・アンケート調査）

4. 市民参加型整備計画により得た効果と策定した整備内容

4. 1、新たな整備の視点

1) 夕日撮影者の視点

観賞者の約 7 割がカメラを持参しており、整備による構造物の張り出しが写真環境を阻害することについて指摘された。

2) 駐車場整備とゴミ問題

駐車場の整備について、周辺の清掃ボランティア活動を行っている方から、長距離トラックのドライバーによるゴミ対策を視野に入れることを指摘された。

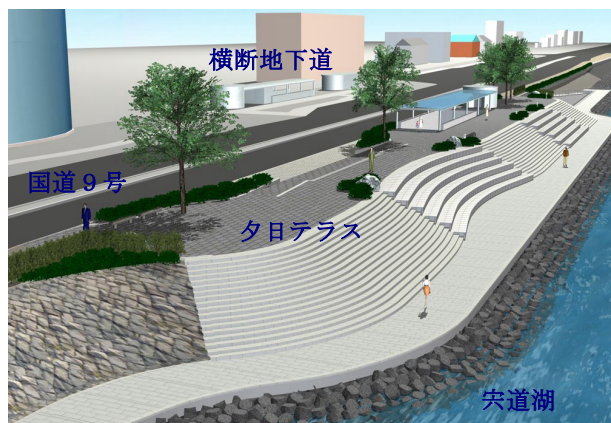
3) 周辺施設及び観光資源を活用した歩行者導線

周辺道路や施設（警察署展望所、卸団地）、観光資源（嫁ヶ島に関する歴史施設）を活用した歩行者導線計画の必要性が提案された。

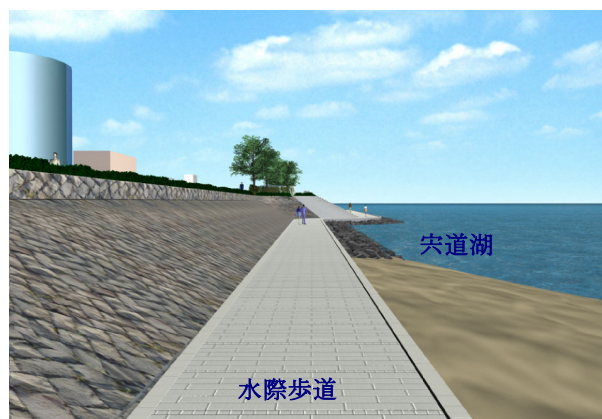
4. 2、策定した整備内容

1) 市民・利用者意見を採用した提案内容

- ・ 駐車場・・・夕日スポット及び都市公園の利便性の向上、利用促進、路肩駐車の解消
- ・ 横断地下道・・・公園側駐車場からの利便性向上と 9 号横断者を防止
- ・ 水際歩道・・・既存になかった穴道湖の親水性を確保
- ・ 夕日テラス・・・溜まりスペースを確保
- ・ 導線計画・・・夕日スポットや周辺施設を含めた多様な利用



図ー3 夕日スポット整備イメージ（夕日テラス）



図ー4 夕日スポット整備イメージ（水際歩道）

5. 求められている整備内容を取り入れるための行政の連携

整備内容・手法について、各専門分野で構造的・施工性等の検討を行うとが必要となった。

- 1) 宍道湖側に整備する夕日テラス、歩道拡幅、水際歩道等の宍道湖の改変が生じる整備について、河川管理者と道路管理者の合併施行とすることで、事前協議も含めた時間短縮と効率化が図られた。
- 2) 都市計画公園内に整備する横断地下道や駐車場等は、道路施設と公園施設双方の機能を有した一体的な整備とすることで整備の実現と効率化が図られた。

6. 市民参加型整備計画による効果

整備計画の策定にあたり、積極的に市民・利用者の意見を取り入れたことにより、整備計画段階での効果と今後の工事段階、完成後において以下のような効果が期待される。

- ・市民・利用者の提案により、新たな整備の視点を把握することができた。
- ・整備区間の宍道湖沿岸を良漁場とする漁協への説明においても市民・利用者から求められている整備として理解を得ることができた。
- ・工事中的の影響に対する市民・利用者の理解・周知が期待される。
- ・地域住民自体が観光資源として再認識し、景観・環境に対する意識の高揚が期待される。

7. まとめ

今回、市民参加により、利用しやすい整備計画の策定が実現したと考える。今後、工事を実施する際も利用者への影響を軽減するための方法や周知方法について、市民・関係機関が連携を図り、進めることが重要であり、その土台は築かれている。また、周辺は独自の風土・自然といった貴重な地域資源が残っており、今後それらを市民・行政が連携し活かしていくことが必要と考える。